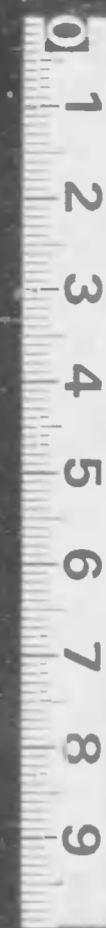


寫眞週報

編輯部報情閣内
ンセ十・號一十九第・日五十月一十

昭和二十一年十一月十五日 第... 五...

檢體力定章
皆さん合格出來ますか



全日本の翼

献納海軍機命名式（東京）

撮影 内閣情報部

全日本献納を記して掲げられた花束は今
海軍の手で代表機の高く飾られた



支那事変貯蓄債券

円百五千
円十五百七

金増割等一

円十
円五

枚一

出賣

十一月十一日
三十一日
又元



行銀業勸本日・省藏大

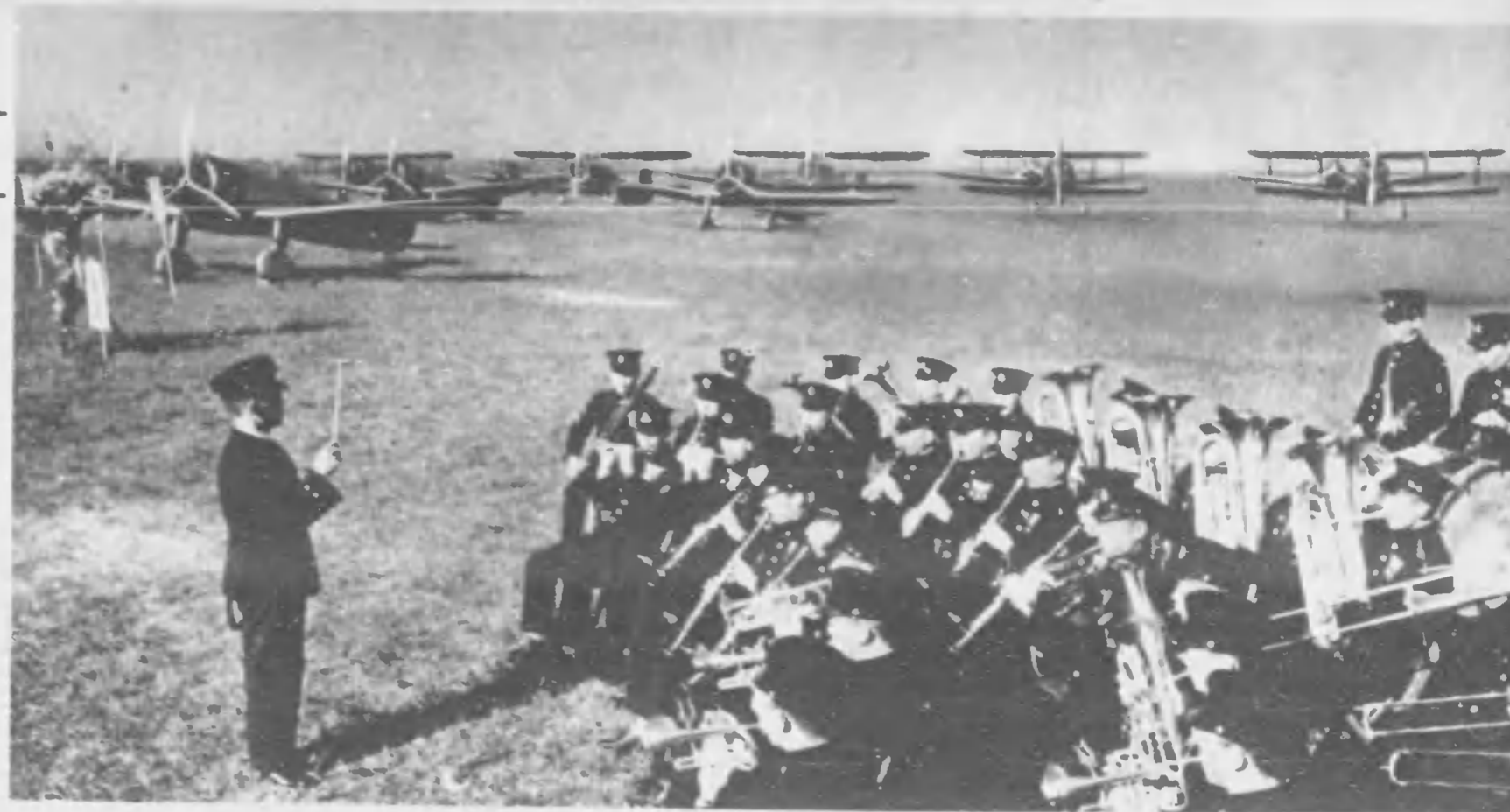
翼の本 日全

世界無敵の海空軍の烈々たる闘志と神技！
今、観衆はその威容に接して限りない信頼の
念と國民的感情にひたる

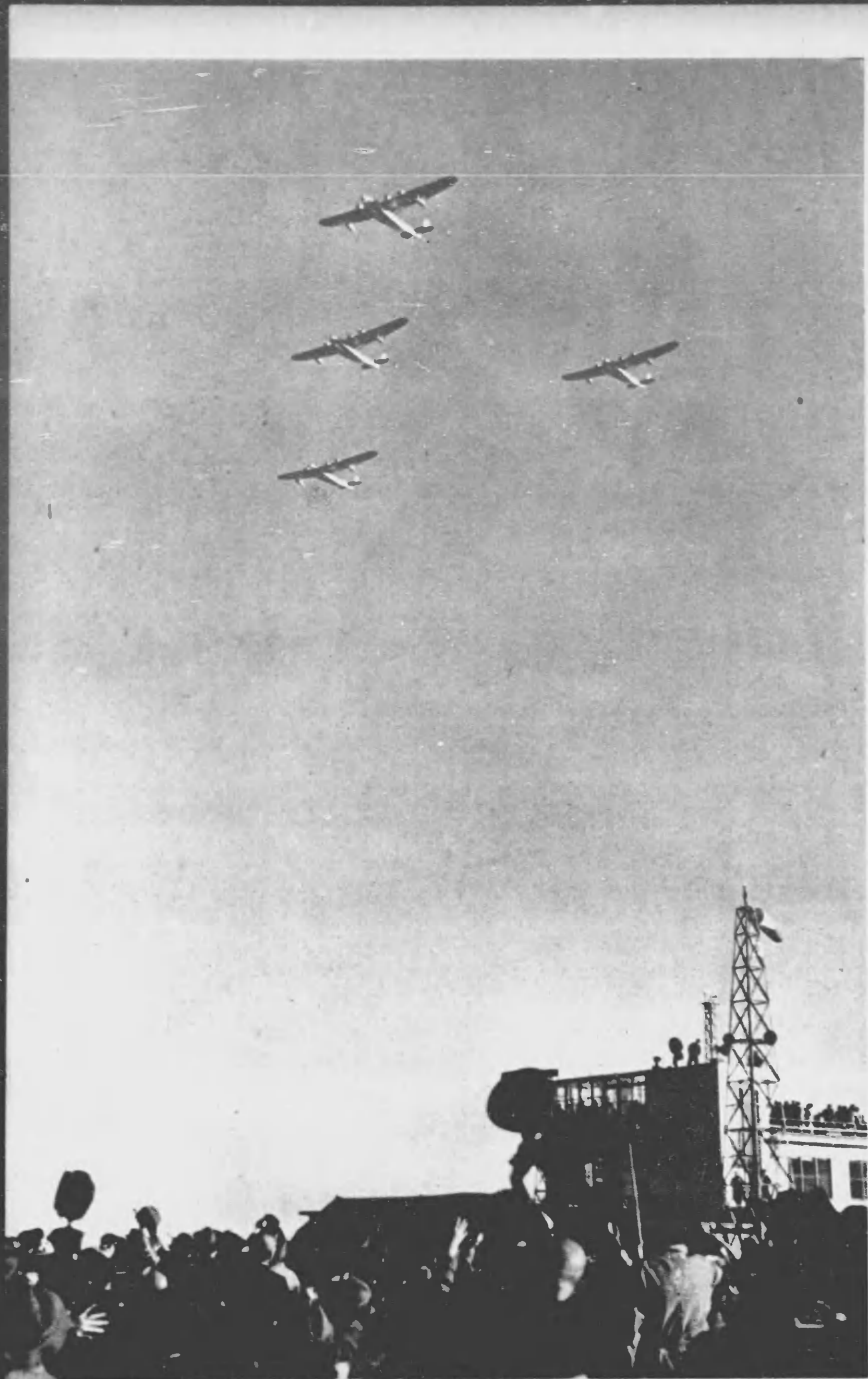
假想敵機の攻撃をうけて艦艦は空を蔽ひ反
撃に飛び立たとする友軍新鋭戦闘機

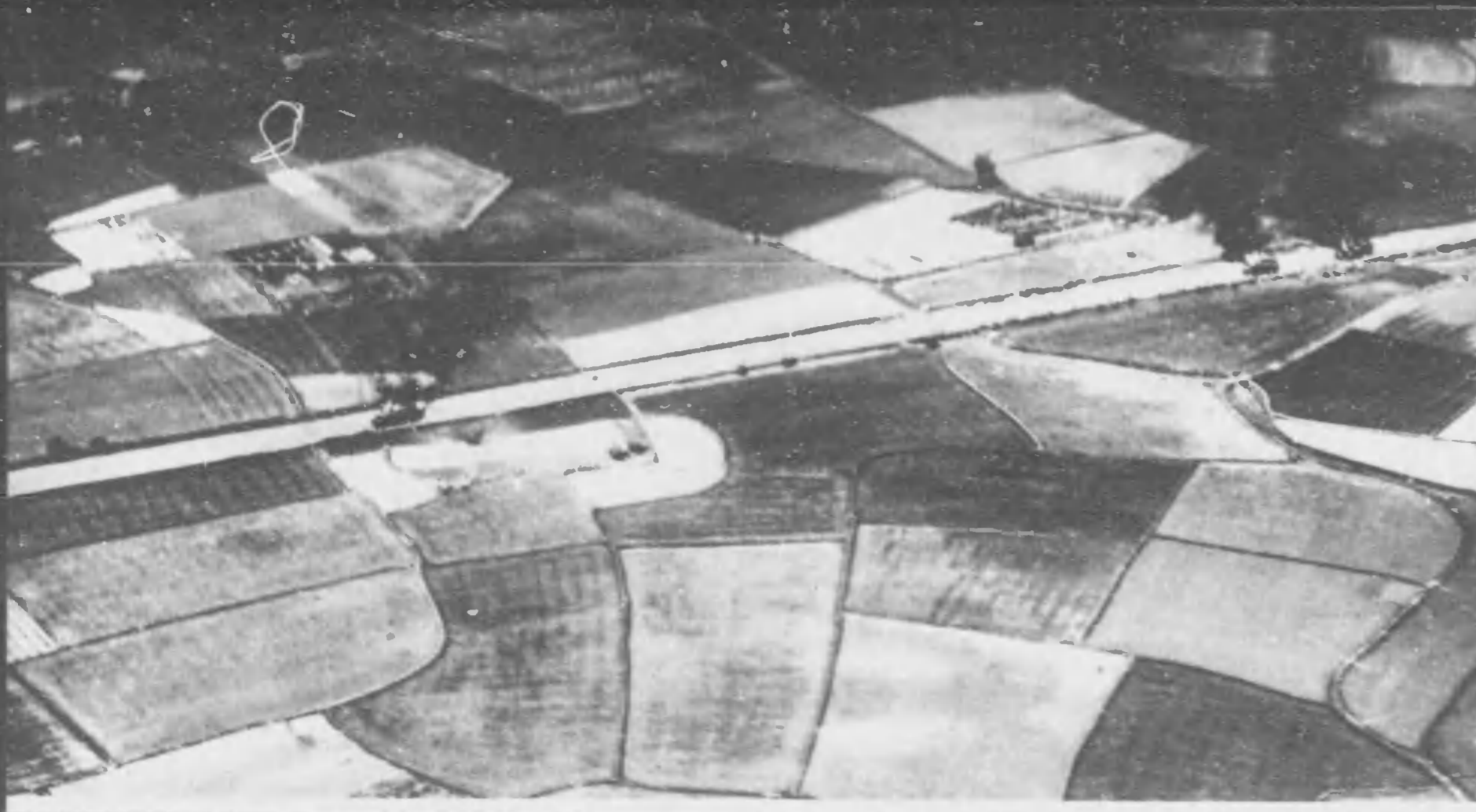
午後二時、海軍軍樂隊の國歌吹奏によつて
命名式は厳かに開幕された

國歌斉唱に次いで修威、降神、献饗の儀が
行はれる



一俣因幡赤城の翼 軍用機動隊によつて
わが海軍の陣頭に敷かれた海の大艦一編隊全日
本艦一五十機の命名式は數十萬の大觀衆を前に十
月卅一日は大坂の第二飛行場で、十一月五日に
は東京の羽田飛行場でそれ／＼海軍省主催朝日新
聞社後援の下に盛大に進行された。
この命名式は海軍の全日本艦命名式の日、東京、
大阪ともに秋空も祝福して絶好の日本晴れ、東京
では長らく伏見軍令部部長官邸下を初め赤坂
御五方の台座を仰ぎ参り、命名式が了つて新鋭海
軍機十機が艦隊を連れて式場上空に飛來し、實
験さながらの空中中隊や急降下機等を各機隊等飛行
を展開、大膽での無敵ぶりをまのあたりに傳ひ意
義深い空の大観衆であつた。





海の翼の この戦果

ジャントもなかの曲者一発見舞つてみるとモク／＼と煙をあげてガソリンが炎えだした。ジャントに仕立てたガソリン輸送船だつた。

事象以来わが艦隊の若狭部隊の活躍は賞にめざましいものである。海軍の南東洋部隊をはじめとして、わが空軍は果敢に敵陣深く突入、軍事據点の徹底的な掃蕩に、投擲ルートの切断に、敵に立ち重なる隙も與はず完全に制空権を確保してゐるのである。しかしこの収めた数々たる成果の裏には幾多尊き空の勇士の犠牲のあることを忘

れてはならない。近くは〇〇海軍航空隊隊員によつて行はれた成程の掃蕩は敵軍據点に徹底的な打撃を與へたが、海軍の至寶、奥田憲久副大佐を失つたことは惜しまれざるべきことであつた。しかし敵がなほ第三艦を頼りに抗日の奮闘を続ける限り、その敵對據点へのわが空軍は限りなく進行されるのである。

この頃の敵輸送トラックは事變初頭のやうに幾十車も行列を作つて走る状態はなくなつた。それだけに街道を木の間に割き、二、三、三、三と分散して走るトラックを発見し、これを一撃ものがさす片づ端から銃撃を加へて潰してゆく業は容易ではない。発見されれば忽ちこのやうに煙幕の黒煙をあげてゆく。

撮影 海軍





カウコ鳥のさへつりを聞き、しぼりたての山羊の乳がめるといふ田舎の生活に惹きつけられながら、ニューヨークの子供たちはいつも石と鏡とアスファルトに囲まれた機械文明の喧騒の裡に暮らしてゐる。かういふ新しい事を幾分でも可能な範囲で実践しようと今年度、チソン・スタニア・ボオイス・クラブといふのが出来た。クラブ員の少年たちは、ニューヨークの一番街と二番街との真中にある一軒のビルの上を借りて天幕生活をしようといふ趣向である。世界一の摩天楼エンハイヤ・スタット・ビルディングの丁度真ん中にあるこのキャンプ・サイトに、さうやかな上層階を中心に二張のテントに展開される少年たちの生活はこれであらう。楽しさである。ビル屋上も、物は使ひようといふ風景。

1 下の道路でスケートをするのなんかより、この屋上キャンプの方がずっといい。フレッドがいったよ、アデロンダックの山に行くところなスモモがたぐさんなつてるんだつて。

2 ボーイ・スカウトやヒトラー・ユリゲントのやうな制服はないけれど、お尻が裂けてたつてバリ／＼さ。この小池じゃ生きた魚も釣れんだ。

3 テントはピンと張られてゐる。毎朝起きたら小川のせせらぎで目を洗ふ。さうだよ、この金だらひはそのつもりさ。

4 夜はキャンプファイヤを盛大にするのさ。薪を割つて準備しとかなくちや、あすこに貼つてある標の輪は本物のキャンピングの感じを出すためワイリがいた。いゝだらう。

5 弓の射的もうまくなつたし、インディアンのやうに真中に當てられるぞ！

6 秋の陽がいつぱいによりそく、ビルの屋上で最後の全メンバーの訓練を、一生懸命みんながつくつた果敢とトーチム・ポール（門飾り）が君ももつてゐる。あのファイヤ・ブレイスだつて水のタンタだつてそれ／＼手工の持ちよりだ。

7 みんなが持ちに持つたキャンプファイヤは燃えかたが冷たい、ニューヨークの夜、赤々と燃える灯を運んで高らかに歌をうたふ。寒の匂ひが風にさわく、お祈りの音さへ聞えてくるやうな気がするだらう。みんなさうしてロマンティックになるのさ。

6

海外通信



児童協会

7





高麗内情報告

十一月八日近衛師團大演習

錦旗の秋嶺麓に翻る

皆々入合格出来ますか

君は百米を十五秒で走れますか？走幅跳は四米以上跳べますか？鐵棒の懸垂はつづけて何回やれますか？一人前の日本人の體力として、これは到達しなればならないといふ具體的な體力修練の目標を決め、この標準に合格した青年に一定の徽章「體力章」を授け體育を奨励しようといふ方法、體力章検定は、いよいよ今度わが國でも實施されることになり、十五歳から廿五歳までの青少年は、すんでこの檢定に参加するやうに要望されてゐる。勿論、廿六才以上の人も特に希望すればいつでも檢定に参加出来る。

従来、體育運動獎勵の目的は體力の向上が第一義であるべきにも拘らず、往々技能本位に陥り易く、青年の興味は自然一つの運動種目にかたより、その結果全身の調和した發達を缺き、運動能力も反つて偏頗になる虞れがあつた。體力章檢定標準はこの缺點を補ひ、運動の基本的

形式である走力、跳力、投擲力、懸垂力、運搬力の全部を含んでゐるから、均勢のとれた身體の發達をはかることになり、最も優れた圓滿な運動能力又は作業力を養ふことになる。

今度男子青少年の受檢者に對して作られた體力章檢定の種目と標準は別項の通りであるが、こゝに紹介するのは、東京でトップを切つて、十一月五日、世田ヶ谷区内一地域で行はれた體力章の檢定である。この日、七十名の青少年がいろいろの職場からあつて参加し、それぞれ自分の體力の實際を具體的に識るといふ貴重な経験をしたのである。そしてこの結果に基づき初級、中級、上級と體力章の授與式は明春二月十一日、紀元の佳節を期して行はれる筈であるが、やがて都會にも田舎にも全國津々浦々の健康明朗な青年の胸間に健康の誇りと體力の精練とをもの語る擴成ある體力章が煥然と輝くことであらう。

體力章檢定標準

種目	級別	
	初級	中級
走	100米疾走 1分00秒	100米疾走 1分05秒
走	2000米走 19分	2000米走 18分
跳	4米	4米50厘
投	3米	4米
懸垂	3回	4回
懸垂	4回	5回
懸垂	5回	6回
懸垂	6回	7回
懸垂	7回	8回
懸垂	8回	9回
懸垂	9回	10回
懸垂	10回	11回
懸垂	11回	12回
懸垂	12回	13回
懸垂	13回	14回
懸垂	14回	15回
懸垂	15回	16回
懸垂	16回	17回
懸垂	17回	18回
懸垂	18回	19回
懸垂	19回	20回
懸垂	20回	21回
懸垂	21回	22回
懸垂	22回	23回
懸垂	23回	24回
懸垂	24回	25回
懸垂	25回	26回
懸垂	26回	27回
懸垂	27回	28回
懸垂	28回	29回
懸垂	29回	30回
懸垂	30回	31回
懸垂	31回	32回
懸垂	32回	33回
懸垂	33回	34回
懸垂	34回	35回
懸垂	35回	36回
懸垂	36回	37回
懸垂	37回	38回
懸垂	38回	39回
懸垂	39回	40回
懸垂	40回	41回
懸垂	41回	42回
懸垂	42回	43回
懸垂	43回	44回
懸垂	44回	45回
懸垂	45回	46回
懸垂	46回	47回
懸垂	47回	48回
懸垂	48回	49回
懸垂	49回	50回



百米走

初級 16秒
中級 15秒
上級 14秒

初級 4米
中級 4米50厘
上級 4米80厘

走幅跳
ノイと踏み切つて
米五〇の距離をこえる



初級 8分
中級 7分30秒
上級 7分



星野氏の申田君も、農家の體格も、パンチの官軍も、みんなそれ／＼體力章檢定の目を持って眼を見ては練習をつんで来た。體力章の檢定種目の成績は、受檢者の職業により或は都會と地方により、又は學生と職人などによつてそれ／＼の特色があるのは勿論である。

尤へば規定力を検査する百米短距離は學生と都會人には比較的容易な種目である。又走幅跳も百米同様力を必要とするもので且つ練習効果のあらはれる運動種目だけに學生や都會の青少年には比較的有利である。然しこれに反して二千米などは遠より耐耐力、技巧よりも頑強さを必要とするから、むしろ農山村の青年に得意な種目であらう。例へば百米を十四秒で切れても、二千米を十分かゝるやうでは初級にも合格出来ないわけで、各級は六種目それ／＼上の標準の通りに檢定をばい／＼と合格しない。又重量の運搬なども日常生活の關係から地方の青年には最も得意なもので、學生生體・都會生活者には不利な種目であらう。即ちそれだけの運動種目によつて各人の得意不得意又は體力の長所短所が明らかになり、その結果、長所は長所として益々之を伸ばす一方、短所を對する補強的體育が自ら考へられ、自然今後獎勵すべき體育種目の種目も、職業により地方によつて異つたものとなつて来る。

撮影 海本忠男



初級 5回
中級 9回
上級 12回

このおの腕の力は
とびつていへ。



検定合格
検定員から中級合格
證明書ももらふ。

陸兵検査を来年に控
へて七回、八回と頑張
る。



かすま來出格含んさ皆

砂をつめた袋をもつて五十米を十五秒以内で走れるか？ 腰飾をはさずがスタートが早いが一瞬に歩加した十五歳の弟さんはまた重くて袋がもち上らない。



初級 35米
中級 40米
上級 45米

手榴弾投
筒子をつけて四十米
をもちよる。



初級 40疋—15秒
中級 50疋—15秒
上級 60疋—15秒

運搬(五〇米)
陸軍、海軍、自衛隊(先
進)

結核の強國は強國 箱急救庭家



息々と降り注ぐ陽光を體一杯に浴びる休憩時間 某工場内の集まり

撮影 望月文吾

結核は結核菌によって起こる傳染病です。結核菌が体内に入れる機会があれば絶対に結核には罹らなげです。従つて農村のやうに結核菌の侵入を受けずには一生結核菌の侵入を受けなくても済む人もあります。けれども今日の都市では三十分以上になつて未だ二度も結核菌の侵入を受けてゐないものは殆んど無い程で、いつかは必ず結核菌感染の機会があると考へなければなりません。近來農村から工場その他へ移り住む人が出て来る人が急に増えて來ました。この人は特に結核菌に注意していかねばならない人達です。従つて都會で結核に罹つて、保健環境の悪い衛生知識の乏しい農村に歸り、これを周圍へ擴げる危険が多いのです。そしてこの傾向は出稼人が多く居ればなる程増加して行くわけですから。そこで農村から都會へ出て間もない人は特にこの點に注意しなくてはなりません。

然し結核菌を恐れてゐるだけでは仕方ありません。特に都會では菌の侵入を絶対に防ぐ事は不可能かも知れませんが、多くの方は自分自身の抵抗力によつて菌を征服して病氣にはならないのです。この抵抗力は誰にでもあるのですがこれを一層強くして結核菌との闘ひに勝つやうにすることは結核菌の最も手輕な方法です。それに如何すれば良いでせうか。つまり日常の生活を健康に適ふやうにする以外にはないのです。住居は日光と外氣の十分に入るやうに注意します。戸外に満ち溢れて

ゐる美しい日光と大氣とを十分に室内に入れます。衣服はなるべく清潔な習慣をつけ、皮膚を清潔にし皮膚の抵抗力を強くするやうに心がけて下さい。食物は色々の種類のものを取り混ぜて食べるやうにし、栄養不足にならないやうにします。偏食は體の抵抗力を弱めます。戦時下は人力不足の折柄、ともすれば無理や過勞が行はれ易いのですがこれは疫病の大きな原因となります。疲れないやうに、又疲れから十分休養をとるやうに心がけてませう。勉強も運動も仕事も過度は避けませう。大酒、夜更し等の不規則な生活は避けなければなりません。

自分の健康に平素十分注意することが何より大切ですが、體の調子の悪いときは勿論のこと、自分では何の故障もないと思ふ時でも時々健康診断をうける事が望ましいのです。風邪だと軽く考へてゐたものが結核の初めたつたりすることがよくあります。早期に發見して正しい治療をすれば結核は必ず癒る病氣です。併し健康診断は通リ一通りの方法では駄目です。ツベルクリン反應、赤血球沈降速度測定、レントゲン検査等の精密な方法によらなければなりません。それは健康相談所を利用されるのが便利で、専門の醫師がおて正しい指導をしてくれます。

以上のことをしつゝすれば結核菌は決して困難ではありません。われわれは結核菌に努力して結核のない明るい興亞日本の建設に努力します。

厚生省農防局結核課

労働に耐へられなくなつた彼女は血球沈降速度の測定、レントゲン検査等の結果、肺を犯されてゐることが明瞭となつた。



農村保健館（埼玉県所澤）では彼女に安靜の自宅療養をすすめ、都會から田舎へ渡す結核の撲滅に乗り出した。先づ保健館のカドに置込まれた結核の患者へは保健館から訪問者が廻り、たんの消毒法、營養の改善、通風、採光等の指導をする。患者自身に話せない場合は家族にいろ／＼と注意をし、周圍への感染も防ぐ。

希望は實現してうれい女工生活ははじまつた。だが生活環境が、からつと變つた上に仕事も忙いので夜更も続く。休養しなければならぬ。公休日は映画見物などで過し、不衛生な公休から餘りに飽きられてゆく。



一家水いらずで行ふ秋の種入れは楽しいが、昨日もまた今日の村の友達はお金の湊山とれる都會へ出て行つた。きれいな着物をきて、映画を見て、乙女の心は友のゐる都會へ飛んでゆく。



保健館の指導通りに開病生活を続け、彼女も遂に結核を征服し、再び晴れ／＼とした生活を取りもどし、世話になつた訪問婦との別らには感謝にちみてる。



第...号 昭和十四年二月五日 第三種郵便物 昭和十四年一月十五日發行 毎週 日本橋区日本橋二丁目



●にひ憩

●にめたふ養を氣元なた新

これは成熟したあのおいしい葡萄から醸したのです。召上れ！そこには味覺から來る快い寛きがあります。而もこれは素晴らしい滋精飲料ですわかい逞しい活力を身體に盛るのです！



赤玉ポーター

内閣印刷局印刷發行

(判倍と報週)・A4規格定幅は3大の若本)